

## 事前評価個表

整理番号	24
------	----

地域（地区）名	おものがわ 雄物川地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	秋田県	対象市町村	秋田市ほか7市町村
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>秋田県のほぼ中央全域から南西を範囲とし、西は日本海と霊峰鳥海山があり、西は奥羽山脈を境に岩手県と宮城県、南は山形県と接しており、国有林が囲むようにある。</p> <p>森林面積は、339,711ha(森林率69%)で、うち民有林面積が190,883ha(民有林率56%)、人工林面積は97,464ha(人工林率51%)である。</p> <p>民有人工林6～12齢級の森林整備対象林が74,984haと人工林の77%を占め、うち8・9齢級の間伐の整備が必要である。しかし、木材価格の低迷、林業労働力の減少や高齢化など林業を取り巻く環境は芳しくない状況にある。この事業により、「林業振興」「秋田スギの産地づくり」を基本とし、森林の適正な整備や林業再生基盤の整備を図りながら、地域資源を活用した林業の活性化を図っていく必要がある。</p> <p>また、各市町村で森林整備事業計画や、総合発展計画等を策定し、農林水産業の振興と計画的な森林の整備を実施し、地域林業の振興を目指していく。</p> <p>本計画に基づき森林整備を実施することにより、森林の持つ公益的機能の増進を確保するとともに、健全な森林を育成する。</p> <p>これでも動植物の生息など自然環境に配慮した森林整備を行っており、今後も関係部局と連携を図りながら実施する。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：32,974ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、雪起こし、枝打ち、除伐、間伐等</p> <p>路網整備：8,800m 林業専用道開設</p> <p>総事業費：7,525,924千円</p>
費用対効果分析結果	B/C =12.05
評価結果	<p>必要性：森林の有する多面的機能の発揮や安定的な林業経営等及び県産材の供給拡大の観点から、当該事業は必要である。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくりによる公益的機能の確保はもとより、安定的な木材供給の面から有効である。</p> <p>森林は、多様な機能を有しているが、これらの機能は一度失うと回復に時間を要することから、適時適切な森林整備を計画的に実施することが不可欠である。</p> <p>本計画では、森林の公益的機能の発揮に配慮した計画としているほか、効率性や有効性が認められることから、本計画を実施することは適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業

地域名: 雄物川

秋田県  
(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	89,866,983	
	流域貯水便益	16,091,314	
	水質浄化便益	27,471,018	
山地保全便益	土砂流出防止便益	494,353	
	土砂崩壊防止便益	441,517	
環境保全便益	炭素固定便益	6,951,049	
木材生産便益	生産等経費縮減便益	32,056	
	木材利用増進便益	4,656	
	木材生産確保・促進便益	13,528,386	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	29,682	
	森林整備促進便益	326,887	
総 便 益 (B)		155,237,901	
総 費 用 (C)		12,873,332	
費用便益比	$B \div C = \frac{155,237,901}{12,873,332} = 12.05$		



## 事前評価個表

整理番号	25
------	----

地域（地区）名	<small>こよしがわ</small> 子吉川地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	秋田県	対象市町村	由利本荘市ほか1市
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>秋田県の南西部に位置し、南に標高2,236mの秀峰鳥海山、東に出羽丘陵を背し、西は日本海を望み中央を1級河川子吉川が貫流して日本海に注いでおり、県内でも温暖で降雪量の少ない地域である。</p> <p>森林面積は、104,260ha(森林率72%)で、うち民有林面積が81,593ha(民有林率78%)、人工林面積は47,898ha(人工林率59%)となっており、県平均(57%)を上回っている。</p> <p>民有人工林の9齢級を主体に6～12齢級の森林整備を必要とする森林が40,089ha(84%)を占めており、間伐を中心とした適正な森林の管理を行い、持続可能な森林の形成による国土の保全を図るとともに、地域住民の生活の安全を確保するため、各市で森林整備事業計画を策定し、路網整備と一体的な森林整備の実施を推進する必要がある。</p> <p>また、各市で森林整備事業計画を策定し、地域の一体的・計画的な森林整備を推進し、森林の持つ公益的機能の発揮や地域振興を目指す。</p> <p>本計画に基づき森林整備を推進することにより、森林の有する公益的機能の維持増進を確保するとともに、林業の健全な発展が促進できる。</p> <p>農耕地の多くが森林に接しており、農林水産業の振興や農林道の整備において、関係部局と連携を図りながら森林整備を実施している。</p> <p>また、国有林も存在するため、森林管理署との連携も図っていく。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：16,280ha 人工造林、下刈り、雪起こし、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：3,979,986千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 8.96
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の状況及び森林整備の緊急性の見地から必要性は高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等により、水源かん養・国土保全等の機能の確保はもとより、地域材の生産量の向上が期待できる。</p> <p>森林は、水源かん養や国土保全など様々な機能を発揮することで、人々が安全で心豊かに生活できる環境を形成しており、その森林の多様な機能を十分発揮させるためにも、持続的・計画的な森林整備は不可欠である。</p> <p>本計画では、森林の公益的機能の発揮に配慮した計画としているほか、効率性や有効性が認められることから、本計画を実施することは適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

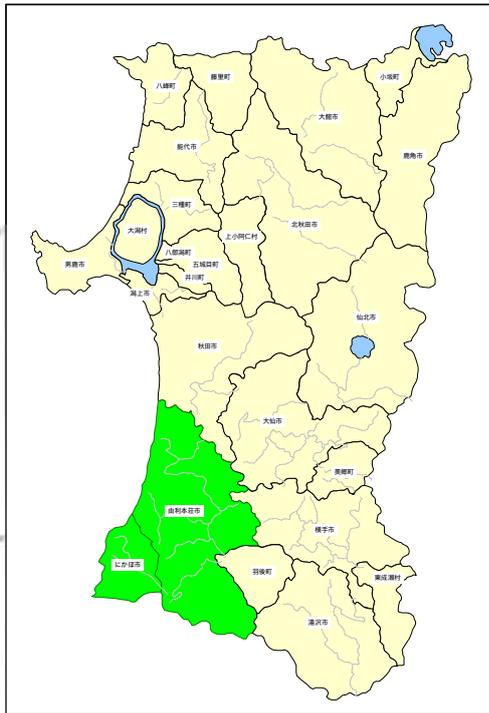
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 子吉川

秋田県  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	32,216,277	
	流域貯水便益	6,827,222	
	水質浄化便益	11,655,380	
山地保全便益	土砂流出防止便益	464,836	
	土砂崩壊防止便益	70,671	
環境保全便益	炭素固定便益	3,154,734	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	7,337,775	
総 便 益 (B)		61,726,895	
総 費 用 (C)		6,882,925	
費用便益比	$B \div C = \frac{61,726,895}{6,882,925} = 8.96$		

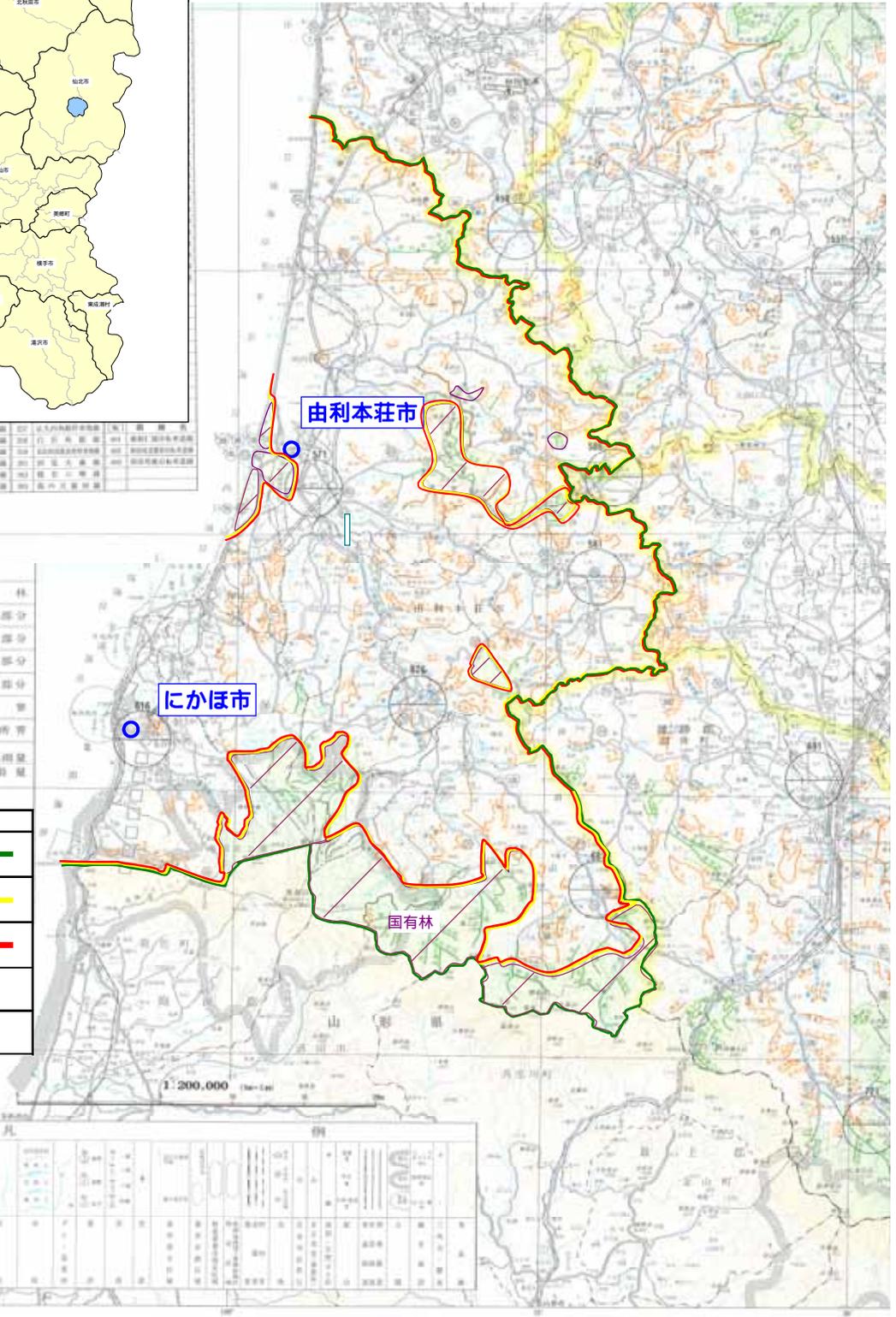
# 森林環境保全整備事業 子吉川流域（秋田県）概要図



1	国	10	市	19	町	28	村	37	大字	46	小字	55	大字	64	小字	73	大字	82	小字	91	大字	100	小字
101	町	110	村	119	大字	128	小字	137	大字	146	小字	155	大字	164	小字	173	大字	182	小字	191	大字	200	小字
201	町	210	村	219	大字	228	小字	237	大字	246	小字	255	大字	264	小字	273	大字	282	小字	291	大字	300	小字
301	町	310	村	319	大字	328	小字	337	大字	346	小字	355	大字	364	小字	373	大字	382	小字	391	大字	400	小字
401	町	410	村	419	大字	428	小字	437	大字	446	小字	455	大字	464	小字	473	大字	482	小字	491	大字	500	小字
501	町	510	村	519	大字	528	小字	537	大字	546	小字	555	大字	564	小字	573	大字	582	小字	591	大字	600	小字
601	町	610	村	619	大字	628	小字	637	大字	646	小字	655	大字	664	小字	673	大字	682	小字	691	大字	700	小字
701	町	710	村	719	大字	728	小字	737	大字	746	小字	755	大字	764	小字	773	大字	782	小字	791	大字	800	小字
801	町	810	村	819	大字	828	小字	837	大字	846	小字	855	大字	864	小字	873	大字	882	小字	891	大字	900	小字
901	町	910	村	919	大字	928	小字	937	大字	946	小字	955	大字	964	小字	973	大字	982	小字	991	大字	1000	小字

凡 例	
	国 有 林
	民 有 林 林 道 設 計 部 分
	民 有 林 林 道 計 画 部 分
	国 有 林 林 道 設 計 部 分
	国 有 林 林 道 計 画 部 分
	市 町 村
	原 木 市 場
	福 合 森 林 事 務 所 界
	上 限 : 最 大 24 時 間 雨 量
	下 限 : 最 大 時 雨 量

凡 例	
	計 画 区 界 (流 域)
	事 業 区 域
	森 林 整 備
	市 町 村
	原 木 市 場



凡 例	
	計 画 区 界 (流 域)
	事 業 区 域
	森 林 整 備
	市 町 村
	原 木 市 場

事前評価個表

整理番号	26
------	----

地域(地区)名	いわき 磐城地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	福島県	対象市町村	相馬市ほか12市町村
事業実施期間	H23 ~ H27 (5年間)	事業実施主体	県、市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>本地域は、福島県の東部に位置し、太平洋と阿武隈高地に挟まれた南北に細い「浜通り」と呼ばれる地域で、3市7町3村からなり、総土地面積は296,911haで県土の22%を占める。森林面積は205,457haで、民有林が118,757ha(58%)、国有林が86,693ha(42%)となっており、うち民有林の人工林面積は62,218ha(人工林率52%)で、かつてはスギやアカマツの造林が主流であったが、現在はヒノキ造林の比率が上回っている。</p> <p>特に間伐等を必要とする ~ 齢級の林分は、34,598haで人工林の56%を占めており、その適正な管理は急務であるが、林業採算性の悪化等により森林所有者の林業経営意欲は減退し、継続的かつ適正な森林整備が困難な状況となっている。</p> <p>また、二酸化炭素吸収源を始めとする多面的な機能を有する森林の適正な管理、さらには再生産可能な資源である木材の利活用も課題となっている。</p> <p>そのため、適正な森林整備と路網等の生産基盤整備により森林の多面的な機能の維持増進と間伐材の利活用等を推進する。また、漁場環境等の保全を図るため、関係部局や団体と連携しながら計画的な森林整備を実施する。</p> <p>本計画に基づき計画的な森林整備を実施することにより水源かん養機能や山地災害防止機能等の森林の持つ多面的機能の高度発揮が期待できるとともに、地球温暖化防止の二酸化炭素吸収源となることも期待できる。また、路網等の生産基盤が一体的に整備されることにより搬出間伐が推進され、木材の利活用が促進される。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：4,440ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：1,107,510千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 9.80
評価結果	<p>必要性：森林整備が必要な森林が多く存在することから、森林の多面的機能を高めるためにも必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって二酸化炭素吸収機能や水源かん養機能、山地災害防止機能等の確保はもとより、保健休養の場として活用される見込みも高く有効である。</p> <p>森林の持つ多面的機能の高度発揮を図る観点から、立地条件に応じた多様な森林資源の整備を実施し、効率的な森林施業や森林の適正管理を計画的に推進することにより健全な森林資源の維持増進を図ることが重要である。</p> <p>本計画は、造林から保育にわたり適切に計画されており、効率性・有効性が認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

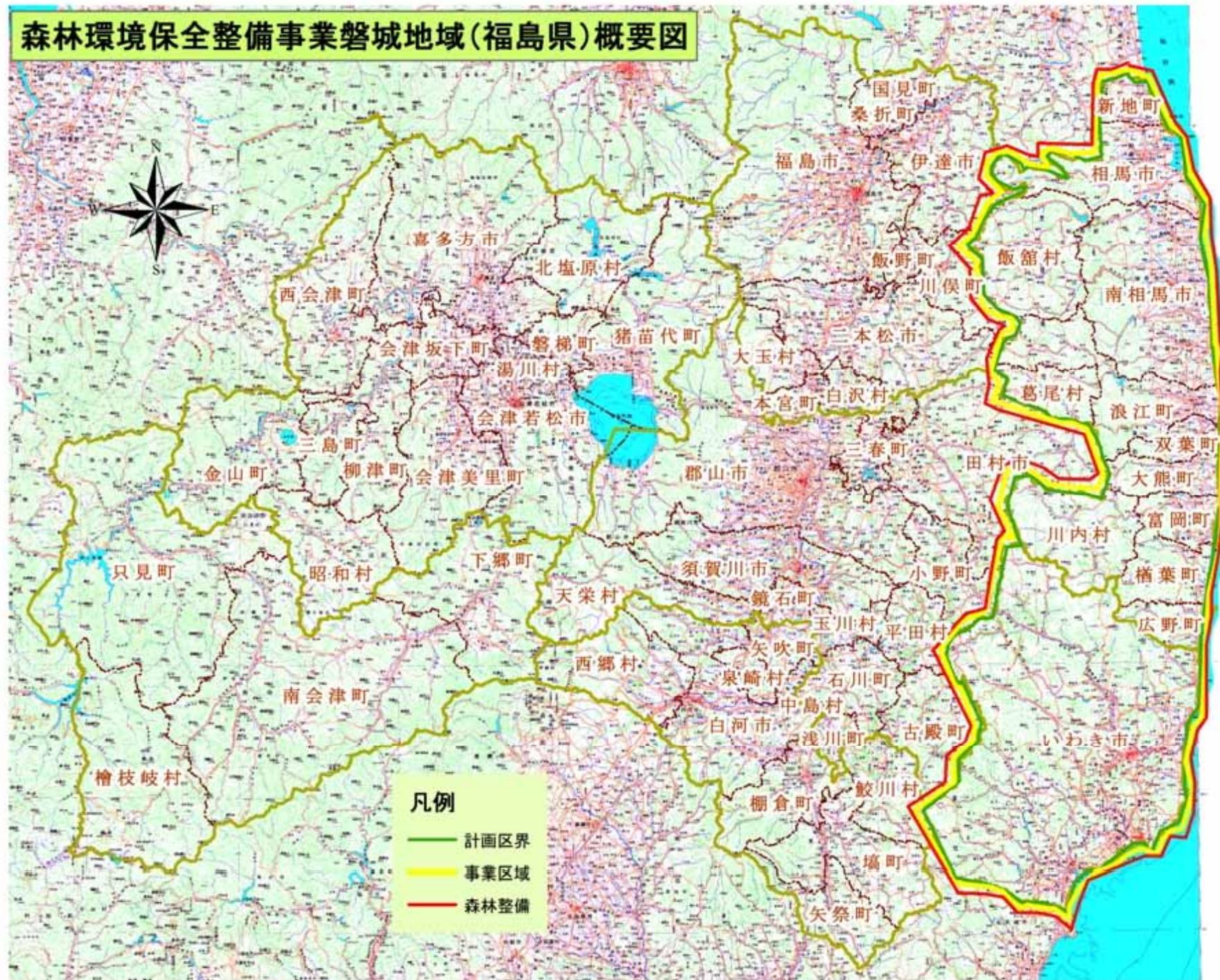
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
地域名: 磐城

福島県  
(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	3,609,118	
	流域貯水便益	1,435,229	
	水質浄化便益	2,450,200	
山地保全便益	土砂流出防止便益	4,916,340	
	土砂崩壊防止便益	42	
環境保全便益	炭素固定便益	315,735	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	1,199,036	
総 便 益 (B)		13,925,700	
総 費 用 (C)		1,420,225	
費用便益比	$B \div C = \frac{13,925,700}{1,420,225} = 9.80$		

# 森林環境保全整備事業磐城地域(福島県)概要図



## 事前評価個表

整理番号	27
------	----

地域（地区）名	あぶくまがわ 阿武隈川地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	福島県	対象市町村	福島市ほか24市町村
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	県、市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>本地域は、福島県の中央に位置する「中通り」と呼ばれる地域で、8市10町7村からなり、総土地面積は477,201haで県土の35%を占める。森林面積は271,983haで、民有林が178,025ha（65%）、国有林が93,958ha（35%）となっており、うち民有林の人工林面積は73,039ha（人工林率41%）で、主にスギやアカマツ等の造林が進んでいる。</p> <p>特に間伐等を必要とする～年齢の林分は、38,272haで人工林の52%を占めており、その適正な管理は急務であるが、林業採算性の悪化等により森林所有者の林業経営意欲は減退し、継続的かつ適正な森林整備が困難な状況となっている。</p> <p>また、二酸化炭素吸収源を始めとする多面的な機能を有する森林の適正な管理、さらには再生産可能な資源である木材の利活用も課題となっている。</p> <p>そのため、適正な森林整備と路網等の生産基盤整備により森林の多面的な機能の維持増進と間伐材の利活用等を推進する。また、農業用水等の保全を図るため、関係部局や団体と連携しながら計画的な森林整備を実施する。</p> <p>本計画に基づき計画的な森林整備を実施することにより水源かん養機能や山地災害防止機能等の森林の持つ多面的機能の高度発揮が期待できるとともに、地球温暖化防止の二酸化炭素吸収源となることも期待できる。また、路網等の生産基盤が一体的に整備されることにより搬出間伐が推進され、木材の利活用が促進される。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：7,280ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>路網整備：1,300m 林業専用道開設</p> <p>総事業費：2,228,350千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 6.06
評価結果	<p>必要性：森林整備が必要な森林が多く存在することから、森林の多面的機能を高めるためにも必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって二酸化炭素吸収機能や水源かん養機能、山地災害防止機能等の確保はもとより、保健休養の場として活用される見込みも高く有効である。</p> <p>森林の持つ多面的機能の高度発揮を図る観点から、立地条件に応じた多様な森林資源の整備を実施し、効率的な森林施業や森林の適正管理を計画的に推進することにより健全な森林資源の維持増進を図ることが重要である。</p> <p>本計画は、造林から保育にわたり適切に計画されており、効率性・有効性が認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 阿武隈川

福島県  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	4,976,220	
	流域貯水便益	1,564,903	
	水質浄化便益	2,671,608	
山地保全便益	土砂流出防止便益	6,011,023	
	土砂崩壊防止便益	491	
環境保全便益	炭素固定便益	540,656	
木材生産便益	生産等経費縮減便益	1,990	
	木材利用増進便益	676	
	木材生産確保・促進便益	1,483,317	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	159	
	森林整備促進便益	58,924	
総 便 益 (B)		17,309,967	
総 費 用 (C)		2,855,529	
費用便益比	$B \div C = \frac{17,309,967}{2,855,529} = 6.06$		



## 事前評価個表

整理番号	28
------	----

地域（地区）名	<small>あいづ</small> 会津地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	福島県	対象市町村	会津若松市ほか16市町村
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	県、市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>本地域は、福島県の西部に位置する「会津」と呼ばれる地域で、2市11町4村からなり、総土地面積は542,069haで県土の39%を占める。森林面積は444,844haで、民有林が238,734ha（54%）、国有林が206,109ha（46%）となっており、うち民有林の人工林面積は53,960ha（人工林率23%）で、主にスギやカラマツ、アカマツであるが、特産のキリやウルシの造林が見られる。</p> <p>特に間伐等を必要とする～齢級の林分は、34,066haで人工林の63%を占めており、その適正な管理は急務であるが、林業採算性の悪化等により森林所有者の林業経営意欲は減退し、継続的かつ適正な森林整備が困難な状況となっている。</p> <p>また、二酸化炭素吸収源を始めとする多面的な機能を有する森林の適正な管理、さらには再生産可能な資源である木材の利活用も課題となっている。</p> <p>そのため、適正な森林整備と路網等の生産基盤整備により森林の多面的な機能の維持増進と間伐材の利活用等を推進する。また、農業用水等の保全を図るため、関係部局や団体と連携しながら計画的な森林整備を実施する。</p> <p>本計画に基づき計画的な森林整備を実施することにより水源かん養機能や山地災害防止機能等の森林の持つ多面的機能の高度発揮が期待できるとともに、地球温暖化防止の二酸化炭素吸収源となることも期待できる。また、路網等の生産基盤が一体的に整備されることにより搬出間伐が推進され、木材の利活用が促進される。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：4,040ha 人工造林、下刈り、雪起こし、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：1,177,840千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 10.03
評価結果	<p>必要性：森林整備が必要な森林が多く存在することから、森林の多面的機能を高めるためにも必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって二酸化炭素吸収機能や水源かん養機能、山地災害防止機能等の確保はもとより、保健休養の場として活用される見込みも高く有効である。</p> <p>森林の持つ多面的機能の高度発揮を図る観点から、立地条件に応じた多様な森林資源の整備を実施し、効率的な森林施業や森林の適正管理を計画的に推進することにより健全な森林資源の維持増進を図ることが重要である。</p> <p>本計画は、造林から保育にわたり適切に計画されており、効率性・有効性が認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 会津

福島県  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	3,856,667	
	流域貯水便益	1,223,402	
	水質浄化便益	2,088,580	
山地保全便益	土砂流出防止便益	5,111,824	
	土砂崩壊防止便益	102	
環境保全便益	炭素固定便益	219,956	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	1,248,576	
総 便 益 (B)		13,749,107	
総 費 用 (C)		1,370,266	
費用便益比	$B \div C = \frac{13,749,107}{1,370,266} = 10.03$		

